

営繕のあゆみ'89



沖縄県土木建築部建築課

『営繕のあゆみ'89』発刊にあたり、御挨拶申し上げます。

本誌は、平成元年度に完成した沖縄県の営繕関係(建築課)を中心に、公営住宅、教育施設、病院施設、都市計画施設(公園)など、公共施設の営繕事業全般についての内容を掲載しています。

近年の公共施設の建築にあたりましては、21世紀のニーズに対し、確かな対応と技術の高度化、専門化の中において、経済性に富み、文化性豊かな施設の創造に英知を発揮し、努力を重ねているところであります。

又、これらの施設は県民の皆様が大いに役立ち、親しみあるものと考えています。

最後に、営繕行政及び本誌の発刊にあたり御協力を下さりました関係者に対し、厚く御礼を申し上げるとともに、今後一層の御協力を御願ひ申し上げます。

平成3年3月

沖縄県土木建築部建築課
課長 池村 国男

目 次

1.特集(首里城公園総合休憩所及び地下駐車場整備事業).....	2
2.営繕関係(建築課)	
総務部.....	10
環境保健部.....	11
生活福祉部.....	12
農林水産部.....	13
土木建築部.....	16
3.住宅関係(住宅課).....	17
4.病院関係(病院管理局).....	19
5.教育施設(教育庁施設課).....	21
6.公園関係(都市計画課).....	22
7.参考資料	
過去5年の工事費及び工事件数推移.....	24
工事概要一覧.....	25
8.沖縄県行政機構図.....	28
9.編集後記.....	29
10.編集スタッフ.....	29

1. 首里城公園総合休憩所及び地下駐車場整備事業

1. はじめに

首里城公園は那覇市街地より東方約2kmの高台に位置し、県立芸大、高等学校、及び小学校が隣接する静かな地域である。

当地域は琉球大学の移転に伴い、首里城跡周辺のあり方について、関係機関の間でそれぞれ検討された。

那覇市から史跡の復元、保存がうたわれ、首里城周辺について公園緑地の一環として総合公園の構想が立案された。

県から第二次沖縄振興開発計画の中で首里城一帯の整備が提言され、昭和59年には首里城復元整備の指針となる『首里城公園基本計画』を策定した。

昭和61年に首里城公園計画地域約17.8haのうち、城郭内側の区域約4haを国営公園として整備すること、城郭外側の区域約13.8haを県営公園として整備することが閣議決定された。

現在、首里城公園は表-1のとおり4つの事業主体により整備が進められているが、本施設は県営公園事業分として、総合休憩所と芝生広場の下にバスの駐車場を整備しようとするものである。



表-1

事業名	事業区分	主な計画施設	担当部局
国営公園事業	城郭の内側	正殿、瑞泉門、漏刻門	沖縄総合事務局 国営沖縄記念公園事務所
県営公園事業	城郭の外側	駐車場、総合休憩所	沖縄県土木建築部
首里城城郭等復元整備事業	城郭	城郭	沖縄県教育庁
特定公園施設整備事業	正殿以外の御庭ゾーン	南殿・番所、北殿、奉神門御庭	住宅・都市整備公園 公園緑地部

2. 業務の進め方

昭和63年に、首里城公園基本設計（沖縄県土木建築部）が制定され、図-1及び図-2のように全体のゾーン、エリア区分が定められた。本施設は公園入口ゾーン・サービスエリアとして位置付けられ、配置、規模等の概要が設定された。

本設計は上記の基本設計に基づいて進めていくことにするが、敷地西側の民有地が未解決のため、工区をI期、II期に分け、段階的に整備できるように検討を加えていった。

3. 基本コンセプト

本設計は、首里城公園のサービス施設の中心施設として、公園来訪者のために、交通、休息、溜まり場、集合、歴史風土探訪の情報、勉強、及び眺望等の場を提供することを基本コンセプトとする。

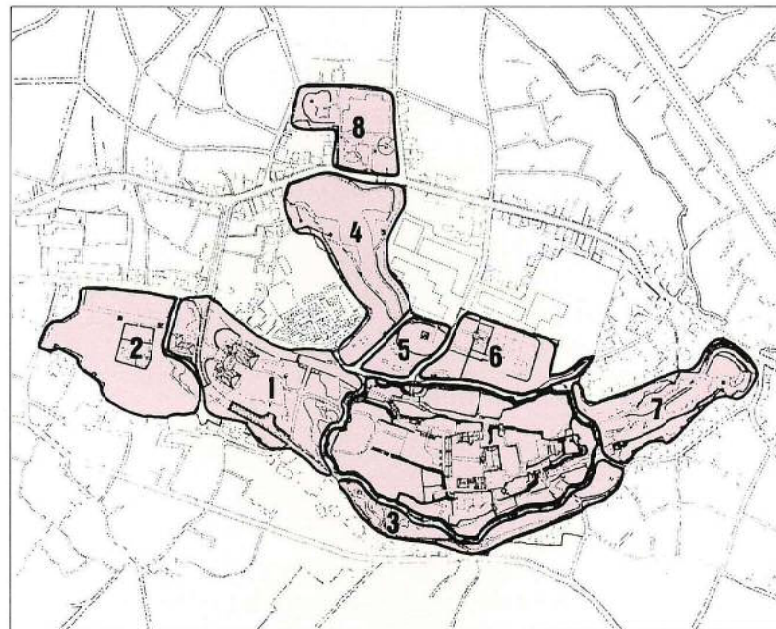


図-1 エリア区分図

図-2 エリア区分特性表

ゾーン名称	エリア名称	地形的特性	歴史的 土地利用	都市公園利用形態			
				休養	鑑賞	散策	サービス
公園入口	1 サービス	平地・緩斜面	天界寺跡地 首里城へのアプローチ	○			○
	2 玉陵	南側一急斜面 北側一平地	玉陵敷地		○		
首里城郭	3 城郭周辺	斜面地	天然の要害				○
	(国営区域)	丘陵台地	首里城	○	○	○	○
龍潭・円覚寺跡	4 龍潭・安国山	水面・急斜面	龍潭・安国山		○	○	
	5 円鑑池・ハンタン山	水面・斜面	円鑑池・ハンタン山		○	○	
	6 円覚寺	造成平地・斜面	円覚寺		○	○	
斜面緑地と東広場	7 上の毛	丘陵	天然の要害	○			○
県立博物館	8 博物館	平地	中城御殿跡	○	○		○

注：ゾーン名称は基本計画段階で設定された名称である。

4. 基本計画

(1) 駐車場計画

① 規模

大型バス、各階32台、合計64台が駐車可能な規模とする。

② 配置計画

用地の東側の真珠道と西側端首里城線（市道）との標高差が13Mもあり、駐車場自体のボリュームや高さの関係から、基本設計書のとおり地下1階出入口を首里城線南東側よりとり、地下2階出入口を首里城線西側からとる計画は適切である。

検討課題はI期工事における地下2階への出入口（暫定入口）の問題である。

以下の検討に入る前に、基本条件として駐車場上部の人工地盤の高さの設定の問題がある。

駐車場の機能、ボリュームや技術的な問題、又歴史的風致の造成という観点からその地盤高さをE、L=113（標高113M）とすることが望ましく、その高さを基準にして作業を進める。

段階的な建設計画のためバス（車両）のアプローチを中心とした計画案が数案提出されたが、修景面、安全面、技術面等から考慮し、地下2階への暫定出入口を首里城線の建設可能な範囲（既存石垣より15M東側迄）で最も標高の低い位置からアプローチする案を進める。

③ 平面計画

イ、駐車方法

駐車場各階共、入口、出口が一方のため、駐車方法は90°後進駐車、90°前進発車方式とする。

ロ、プランニング

大型バスが機能的かつ安全に利用者の乗降及び移動ができるよう、人と車との動線を考えたプランとする。又、バスの駐車需要の少ない時期は、乗用車駐車場として共用可能にする。

④ 外装計画

一部外装に露出する部分、非常階段室や給排気筒等は石、瓦、植栽等で修景を行う。

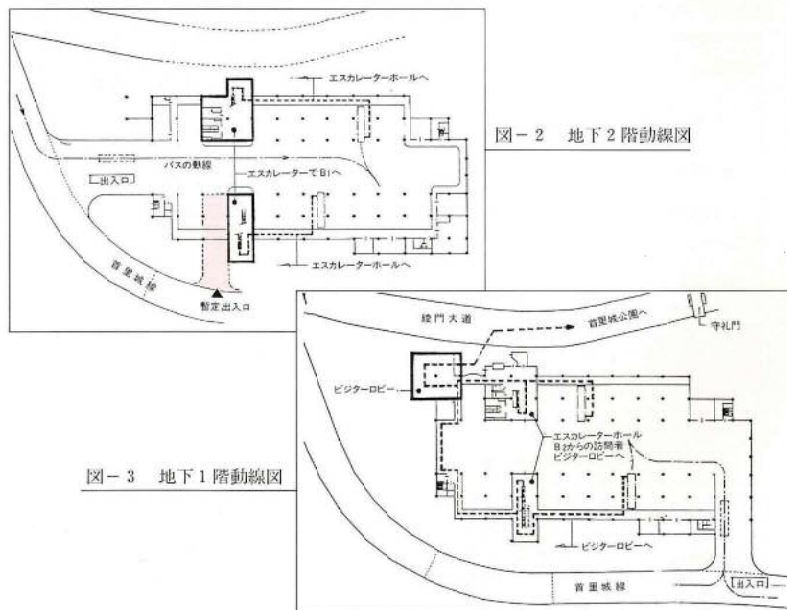
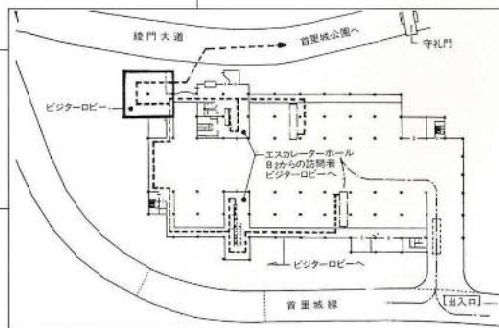


図-3 地下1階動線図



(2) 総合休憩所の計画

① 基本的考え方

公園利用者の休憩の場を確保すると共に意匠面においては歴史的風致景観に調和するデザインを創出する。

② 平面計画

イ、動線

入る人、出る人の動線を明確にし、東側の芝生広場及び、地下駐車場と有機的、合理的に結びつける。

ロ、休憩室

休憩室はいくつかのスペースに分け、各スペースに変化をもたせ団体利用者、個人利用者、研究者、又はレクリエーションの利用者と多様に対応できるよう計画した。

ハ、地上部と地下部はエスカレーターで連絡し、円滑な動線の流れを確保する。

ニ、身障者に配慮し、エレベーターを設置する。

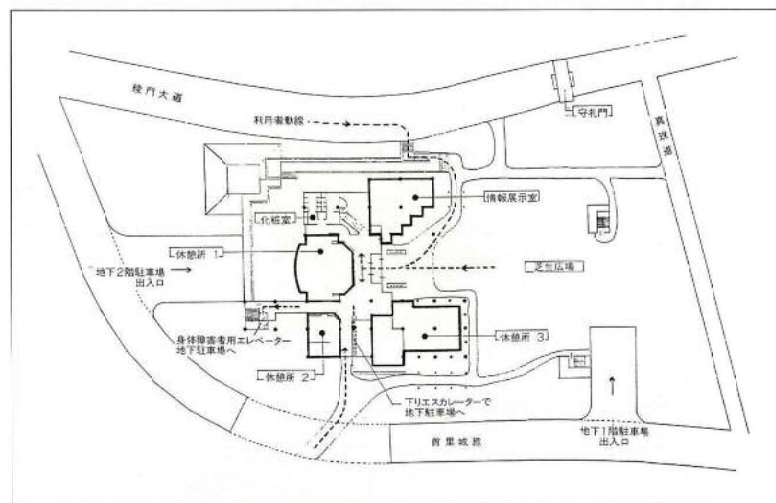


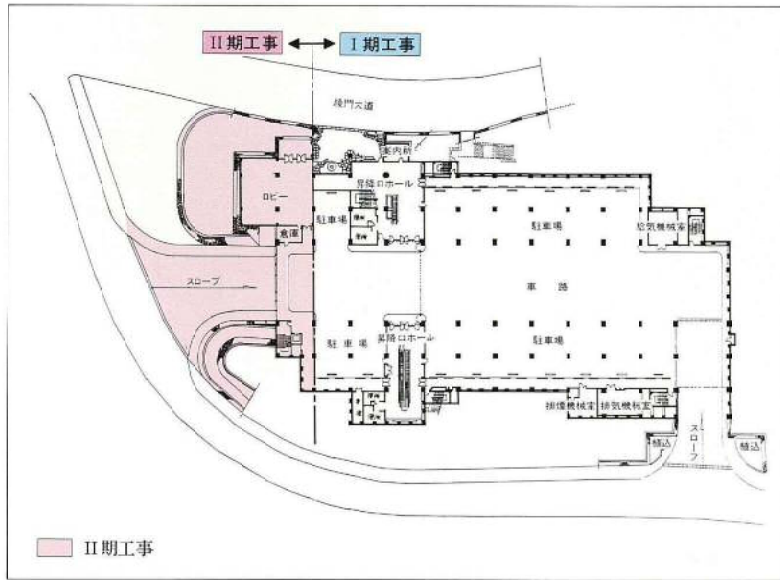
図-4 1階動線図

③ 意匠及び景観計画

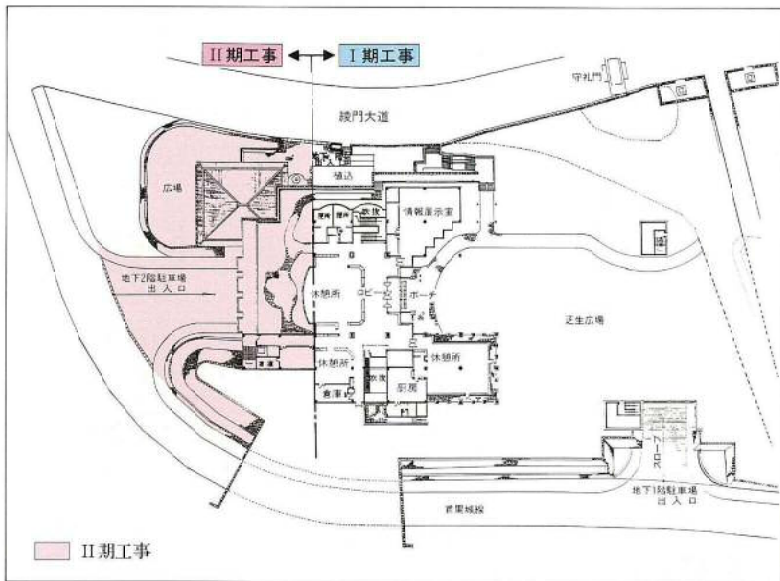
意匠、景観については、石とコンクリートと赤瓦を主材に歴史的風致景観に調和するようデザインする。

又隣接する綾門大道や守礼門との関係には細心の注意を払う必要がありその面の外壁線や屋根形状をセットバックや分節化等の手法を用い、建物のボリュームや高さからくる圧迫感をなくすようにした。

- ・ 外壁は一般地盤面（E、L=113）より下がった部分〈ビクターロビー回り等〉は石材を使用しその他地上部分はコンクリート打ち放しを基本とする。さらに植栽等で修景する。
- ・ 屋根は寄棟赤瓦葺きとし、一部陸屋根で設備機器の設置場所は外部から見えないう工夫する。



B1階平面図



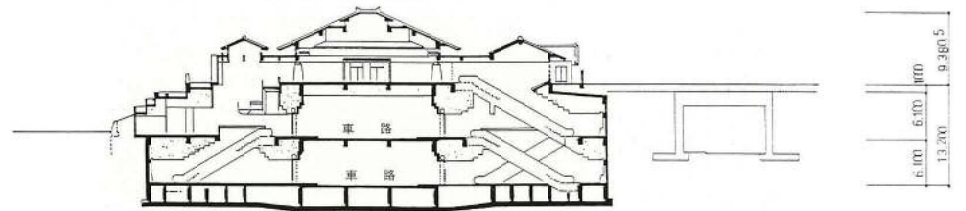
1階平面図



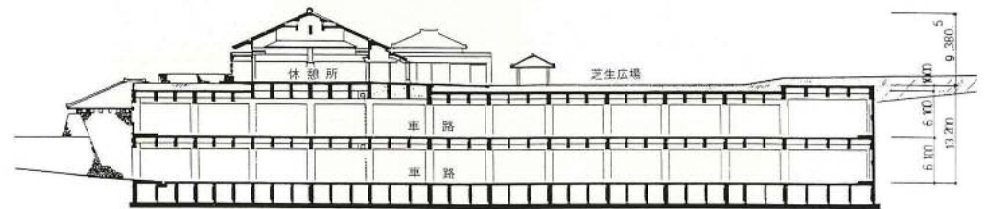
北面立面図



東面立面図



断面図



断面図

2. 管轄関係(建築課)

総務部



名称：県立芸術大学音楽棟
 所在地：那覇市首里
 工期：平成11年9月19日～平成22年3月26日
 構造：鉄筋コンクリート造(4階建)
 延面積：3,577㎡
 設計：沖縄県建築設計監理共同組合
 総工事費：864,682千円
 施工：建築1工区：三善建設㈱・藤都建設JV
 建築2工区：棟丸平組
 建築3工区：棟下地建設
 電気：金城電気工事㈱・新和電気JV
 衛生：荷丸産業
 空調：株園場組・南西空調設備㈱JV



環境保健部



名称：八重山保健所機能訓練室
 所在地：石垣市字真栄里438
 工期：平成11年10月2日～平成22年3月30日
 構造：鉄筋コンクリート造(平屋建)
 延面積：110㎡
 設計：棟沖設計
 総工事費：24,526千円
 施工：建築：荷夕モト工業
 設備：株南西工業

